

2022年2月10日

上場会社名 株式会社テレビ朝日ホールディングス
 コード番号 9409 URL <https://www.tv-asahi.co.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役会長・CEO (氏名) 早河 洋
 問合せ先責任者 (役職名) 経理局長 (氏名) 小林 直治
 四半期報告書提出予定日 2022年2月10日
 配当支払開始予定日
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

上場取引所 東
 TEL 03-6406-1115

(百万円未満切捨)

1. 2022年3月期第3四半期の連結業績(2021年4月1日～2021年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2022年3月期第3四半期	222,223	16.6	16,353	80.6	20,665	66.5	14,118	81.7
2021年3月期第3四半期	190,627	14.0	9,056	16.2	12,410	57.9	7,768	68.6

(注) 包括利益 2022年3月期第3四半期 22,994百万円 (19.8%) 2021年3月期第3四半期 19,193百万円 (15.3%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2022年3月期第3四半期	139.06	
2021年3月期第3四半期	74.96	

(注) 「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号2020年3月31日)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しております。詳細は、【添付資料】P.9
 「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(会計方針の変更)」をご覧ください。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2022年3月期第3四半期	497,740	395,601	79.2
2021年3月期	473,739	376,105	79.1

(参考) 自己資本 2022年3月期第3四半期 394,353百万円 2021年3月期 374,964百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2021年3月期		20.00		20.00	40.00
2022年3月期		20.00			
2022年3月期(予想)				30.00	50.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 有

2022年3月期(予想) 期末配当金30円00銭には、特別配当10円00銭が含まれております。

3. 2022年3月期の連結業績予想(2021年4月1日～2022年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	300,000	13.4	20,000	38.8	24,000	33.5	19,000	50.8	187.10

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(注) 詳細は、[添付資料] P.9「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有

以外の会計方針の変更 : 無

会計上の見積りの変更 : 無

修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)

2022年3月期3Q	108,529,000 株	2021年3月期	108,529,000 株
------------	---------------	----------	---------------

期末自己株式数

2022年3月期3Q	6,925,333 株	2021年3月期	7,019,586 株
------------	-------------	----------	-------------

期中平均株式数(四半期累計)

2022年3月期3Q	101,530,904 株	2021年3月期3Q	103,637,800 株
------------	---------------	------------	---------------

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

・上記の予想は、当社が本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成しており、実際の業績は、環境の変化により異なる結果となることがあります。業績予想の前提につきましては[添付資料] P.4「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

・四半期決算補足説明資料は、2022年2月10日(木)に当社ホームページに掲載いたします。

[添付資料の目次]

1. 当四半期決算に関する定性的情報	P. 2
(1) 経営成績に関する説明	P. 2
(2) 財政状態に関する説明	P. 4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	P. 4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	P. 5
(1) 四半期連結貸借対照表	P. 5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	P. 7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	P. 9
(継続企業の前提に関する注記)	P. 9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	P. 9
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	P. 9
(会計方針の変更)	P. 9
(セグメント情報)	P. 10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間の日本経済は、新型コロナウイルス感染症による厳しい状況が徐々に緩和され、持ち直しの動きが見られました。テレビ広告市況におきましても、東京地区のスポット広告の出稿量がコロナ禍で低迷した前年同期を大きく上回り、好調に推移しました。

このような経済状況のなか、当第3四半期連結累計期間の売上高は、テレビ放送事業におけるタイム収入、スポット収入の大幅な増収に伴い2,222億2千3百万円（前年同期比+16.6%）となり、売上原価、販売費及び一般管理費の合計が2,058億7千万円（同+13.4%）となりました結果、営業利益は163億5千3百万円（同+80.6%）となりました。また、経常利益は206億6千5百万円（同+66.5%）、親会社株主に帰属する四半期純利益は141億1千8百万円（同+81.7%）となりました。なお、「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号2020年3月31日）等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しております。詳細については、「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記（3）四半期連結財務諸表に関する注記事項（会計方針の変更）」をご参照ください。

セグメントごとの経営成績は、次のとおりであります。

①テレビ放送事業

タイム収入は、「東京オリンピック」「世界体操・世界新体操 北九州」「世界フィギュアスケート国別対抗戦 2021」「全英オープンゴルフ」などの単発番組により増収となりました結果、655億9千1百万円（前年同期比+16.3%）となりました。

スポット収入は、前年同期に低迷した東京地区の広告出稿量が反動増となったことなどから大幅な増収となりました。業種別では、「外食・各種サービス」「情報・通信」「飲料・嗜好品」など多くの業種で増収となりました。以上の結果、スポット収入は689億3千8百万円（同+25.3%）となりました。

また、BS・CS収入は192億3千5百万円（同+4.7%）、番組販売収入は99億4千8百万円（同+1.5%）、その他収入は161億7千4百万円（同+7.6%）となりました。

以上により、テレビ放送事業の売上高は1,798億8千7百万円（同+16.4%）、営業費用は1,655億2千3百万円（同+11.9%）となりました結果、営業利益は143億6千3百万円（同+116.4%）となりました。

②音楽出版事業

前年同期は新型コロナウイルス感染症の影響により、所属アーティストのコンサートツアーを含む音楽イベントの開催を見送ったものの、当期は会場の人数制限のもと「平井大」「湘南乃風」及び「ソナーポケット」が全国ツアーを実施したことなどにより、音楽出版事業の売上高は57億2千9百万円（前年同期比+22.9%）、営業費用は50億8千9百万円（同+21.2%）となりました結果、営業利益は6億4千万円（同+38.2%）となりました。

③その他事業

通販番組「じゅん散歩」が引き続き好調な視聴率を維持していることに加え、通販特番「坂上くんが試してみた!!」や「今田耕司★ヒットの世界」が好評を博したこと及び2020年11月に連結子会社化した株式会社イッティの業績取り込みなどにより、ショッピング事業が増収となりました。また、前年同期における大型イベントの中止・延期の反動増によりイベント事業が増収となりました。一方で、前年同期に公開したドラえもん50周年記念作品「STAND BY ME ドラえもん2」の反動減などにより、出資映画事業は減収となりました。

以上により、その他事業の売上高は464億3千2百万円(前年同期比+13.4%)、営業費用は451億1千6百万円(同+15.7%)となりました結果、営業利益は13億1千5百万円(同△32.7%)となりました。

報告セグメントごとの経営成績の状況は、次のとおりであります。

(単位：百万円、%表示は対前年同期増減率)

	売上高		
	前第3四半期 連結累計期間	当第3四半期 連結累計期間	
テレビ放送事業	154,609	179,887	16.4%
音楽出版事業	4,661	5,729	22.9%
その他事業	40,933	46,432	13.4%
調整額	△9,577	△9,826	—
合計	190,627	222,223	16.6%

(単位：百万円、%表示は対前年同期増減率)

	セグメント利益		
	前第3四半期 連結累計期間	当第3四半期 連結累計期間	
テレビ放送事業	6,638	14,363	116.4%
音楽出版事業	463	640	38.2%
その他事業	1,954	1,315	△32.7%
調整額	0	33	—
合計	9,056	16,353	80.6%

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末の総資産は前連結会計年度末比240億1百万円増の4,977億4千万円となりました。これは、現金及び預金が163億9千7百万円減少したものの、有価証券が260億3百万円、投資有価証券が142億3百万円増加したことなどによります。

負債合計は、前連結会計年度末比45億5百万円増の1,021億3千9百万円となりました。これは、繰延税金負債などの増加により固定負債の「その他」が39億6百万円、支払手形及び買掛金が14億2千2百万円増加したことなどによります。また、純資産合計は、前連結会計年度末比194億9千6百万円増の3,956億1百万円となりました。この結果、自己資本比率は79.2%となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2022年3月期の連結業績予想につきましては、ビジネスソリューション本部による各種施策や、番組制作費のコストコントロール並びにコロナ禍において経費支出が減少したことなどにより営業費用が減少し、営業利益、経常利益及び親会社株主に帰属する当期純利益は、いずれも前回予想(2021年11月11日公表)を上回る見通しであります。

2022年3月期通期連結業績予想数値の修正(2021年4月1日～2022年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	300,000	17,000	20,000	17,000	167.45
今回修正予想(B)	300,000	20,000	24,000	19,000	187.10
増減額(B-A)	—	3,000	4,000	2,000	
増減率(%)	—	17.6%	20.0%	11.8%	
(ご参考)前期実績 (2021年3月期)	264,557	14,413	17,980	12,600	122.08

※上記の予想は、当社が本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成しており、実際の業績は、環境の変化により異なる結果となることがあります。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2021年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	36,400	20,002
受取手形及び売掛金	74,757	79,452
有価証券	19,099	45,103
棚卸資産	12,211	11,547
その他	9,149	10,821
貸倒引当金	△77	△79
流動資産合計	151,540	166,848
固定資産		
有形固定資産		
土地	51,266	51,266
その他(純額)	56,316	51,697
有形固定資産合計	107,582	102,964
無形固定資産		
その他	9,117	8,654
無形固定資産合計	9,117	8,654
投資その他の資産		
投資有価証券	183,834	198,038
その他	22,523	21,844
貸倒引当金	△859	△608
投資その他の資産合計	205,498	219,273
固定資産合計	322,199	330,892
資産合計	473,739	497,740
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	6,105	7,528
その他	54,257	54,197
流動負債合計	60,362	61,725
固定負債		
退職給付に係る負債	17,278	16,514
その他	19,992	23,899
固定負債合計	37,271	40,413
負債合計	97,634	102,139

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2021年12月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	36,665	36,677
資本剰余金	70,438	70,472
利益剰余金	244,232	254,585
自己株式	△13,837	△13,637
株主資本合計	337,499	348,097
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	41,213	49,480
繰延ヘッジ損益	12	10
為替換算調整勘定	△75	112
退職給付に係る調整累計額	△3,686	△3,347
その他の包括利益累計額合計	37,464	46,256
非支配株主持分	1,141	1,247
純資産合計	376,105	395,601
負債純資産合計	473,739	497,740

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)
売上高	190,627	222,223
売上原価	141,308	157,616
売上総利益	49,318	64,606
販売費及び一般管理費	40,262	48,253
営業利益	9,056	16,353
営業外収益		
受取配当金	1,278	1,185
持分法による投資利益	1,996	2,762
その他	276	439
営業外収益合計	3,551	4,387
営業外費用		
固定資産廃棄損	77	35
その他	119	39
営業外費用合計	197	75
経常利益	12,410	20,665
特別損失		
貸倒引当金繰入額	603	-
新型コロナウイルス感染症による損失	344	205
特別損失合計	948	205
税金等調整前四半期純利益	11,462	20,460
法人税等	3,663	6,258
四半期純利益	7,798	14,202
非支配株主に帰属する四半期純利益	29	83
親会社株主に帰属する四半期純利益	7,768	14,118

四半期連結包括利益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)
四半期純利益	7,798	14,202
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	9,454	8,157
繰延ヘッジ損益	26	△0
為替換算調整勘定	△18	45
退職給付に係る調整額	393	342
持分法適用会社に対する持分相当額	1,537	246
その他の包括利益合計	11,394	8,791
四半期包括利益	19,193	22,994
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	19,163	22,910
非支配株主に係る四半期包括利益	29	83

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

(税金費用の計算)

税金費用については、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法によっております。ただし、当該見積実効税率を用いて税金費用を計算すると著しく合理性を欠く結果となる場合には、法定実効税率を使用する方法によっております。

(会計方針の変更)

(収益認識に関する会計基準等の適用)

「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号2020年3月31日。以下「収益認識会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識することとしております。これによる主な変更点は、次のとおりであります。

(1) 本人と代理人

テレビ放送事業及びその他事業の一部の取引に係る収益について、従来は、総額で収益を認識しておりましたが、顧客への財又はサービスの提供における役割(本人又は代理人)を判断した結果、純額で収益を認識する方法に変更しております。

(2) ライセンスの供与

その他事業のインターネット事業における一部のライセンスの供与に係る収益について、従来は、ライセンス期間にわたり収益を認識しておりましたが、財又はサービスを顧客に移転し当該履行義務が充足された一時点で収益を認識する方法に変更しております。

収益認識会計基準等の適用については、収益認識会計基準第84項ただし書きに定める経過的な取扱いに従っており、第1四半期連結会計期間の期首より前に新たな会計方針を遡及適用した場合の累積的影響額を、第1四半期連結会計期間の期首の利益剰余金に加減し、当該期首残高から新たな会計方針を適用しております。

この結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は3,281百万円減少し、売上原価は3,269百万円減少し、営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益はそれぞれ12百万円減少しております。また、利益剰余金の当期首残高は487百万円増加しております。

(セグメント情報)

I 前第3四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント				調整額 (注1)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注2)
	テレビ放送 事業	音楽出版 事業	その他 事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	151,990	4,498	34,138	190,627	—	190,627
セグメント間の内部売上高 又は振替高	2,618	163	6,795	9,577	△9,577	—
計	154,609	4,661	40,933	200,204	△9,577	190,627
セグメント利益	6,638	463	1,954	9,056	0	9,056

(注) 1. セグメント利益の調整額0百万円は、セグメント間取引消去△67百万円、当社における子会社からの収入1,632百万円及び全社費用△1,564百万円であります。全社費用は、主に提出会社のグループ経営管理に係る費用であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント				調整額 (注1)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注2)
	テレビ放送 事業	音楽出版 事業	その他 事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	177,025	5,571	39,626	222,223	—	222,223
セグメント間の内部売上高 又は振替高	2,862	157	6,806	9,826	△9,826	—
計	179,887	5,729	46,432	232,049	△9,826	222,223
セグメント利益	14,363	640	1,315	16,319	33	16,353

(注) 1. セグメント利益の調整額33百万円は、セグメント間取引消去△52百万円、当社における子会社からの収入1,503百万円及び全社費用△1,417百万円であります。全社費用は、主に提出会社のグループ経営管理に係る費用であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2 報告セグメントの変更等に関する事項

(会計方針の変更)に記載のとおり、第1四半期連結会計期間の期首から収益認識会計基準等を適用し、収益認識に関する会計処理方法を変更したため、事業セグメントの利益又は損失の算定方法を同様に變更しております。

当該変更により、従来の方法に比べて、当第3四半期連結累計期間の「テレビ放送事業」の売上高は574百万円減少、セグメント利益に与える影響はありません。また、「その他事業」の売上高は2,707百万円減少、セグメント利益は12百万円減少しております。